

総務文教常任委員会視察報告書

平成24年12月3日

- 1 視察日 平成24年11月26日(月)
視察先 下松市市民交流拠点施設「ほしらんど くだまつ」
事項 図書館、公民館等の複合施設について
- 2 参加委員 伊藤實 河野 伊藤武 河崎 高松 中島 中村

3 報告事項

【視察の目的】

現在本市では、総合事務所、図書館、公民館、歴史民俗資料館及び保健センターの機能を持った複合施設を建設する計画を進めており、基本設計を策定中である。平成24年3月、下松市に図書館及び公民館の機能を持った複合施設が完成したので、建設に至る経緯や施設の現状など、本市の複合施設建設の参考にするために視察を行った。

【視察先の状況】

施設は市の中心部にあり、敷地面積8,357㎡、延床面積4,970㎡、鉄骨造2階建て(一部3階建て)である。施設は中央公民館、図書館の機能を持っているが、その他にも民俗資料展示コーナーや多目的ホール、カフェコーナー、市民活動室など、集会、展示、市民交流機能を持つ多目的複合施設である。建設費は約19億円で、そのうちの4億円がまちづくり交付金である。

下松市では、公共施設の建設において初めて「市民と行政の協働による施設づくり」に取り組んでいる。具体的には施設利用者アンケート調査を行ったり、市民ワークショップを開催し、行政の中には横断的な組織を作り、業者選定も公募型プロポーザル方式を採用して審査委員会に市民を入れた。また、周辺・近隣住民対象意見交換会や備品購入に当たっての利用者ヒアリングを行っていて、市民の声が施設内の細かな配慮となって活かされていた。

また、全国の先進地に出向いて調査を重ね、成功例は積極的に取り入れるというスタンスが、カフェの設置という公共施設には珍しい挑戦となっている。

【考察】

下松市の視察を通して「市民と行政の協働による施設づくり」の具体的な取り組みがよくわかった。きめ細かく市民へアプローチをして、利用者や住民の声がしっかり活かされていると感じた。一方、担当者の説明でも触れられたように、議会としてはどのように関わることができるのか、新たな課題も見えた。

本市においては現在市民によるワークショップが行われている段階であるが、しっかりとその声が活かされる仕組みとなっているのか、議会としても情報共有をしながら、より良い施設が建設されるように取り組んでいくべきである。